

改題 土楽たより

どうらく

Kogure 農場 7月号 (NO87)

2017年7月10日(月)発行(毎月10日)

【農暦】黒豆、小豆の播種をした！

○酷暑が続く中、黒豆、小豆の播種の段取りの耕起をした。何度かに分けて耕起していたが車の事故や叔母が亡くなるなどでいつもに増して農作業がおろそかになっていた。6月下旬には行う予定であったが、先に耕起した部分が1m超えの草地になっていた。何回目かになる耕起を29日にした。Iさんが黒豆、小豆の播種の援農に来られると言われていた。5-6日の予定から8-9日に延期して頂いた。播種出来る状態にするための耕起を6-7日に行う。畦などの大きく繁茂の草を草払い機で刈った。やっと前日に前段の準備を終えることが出来た。8日は8時から始め11時半には播種を終えた。これ以上は続けるのが怖い位に暑かった。9日は落花生のオオマサリの定植をした。空きスペースの一部に黒小豆、白小豆を少し蒔いた。水分を頻繁に補給し大汗をかきながらの農作業になった。雨はしばらく期待できそうにない、落花生が日照りに耐えられるか心配である。

○九州では連日の豪雨で被災のニュースが続く。映像から雨、濁流の激しさが見とれる。被災から5日も経っても孤立し連絡が取れない所があるという。自然の猛威に恐怖する。地震に続いての被災である。異常気候は常態化している。温帯から亜熱帯の気候になっている。地球温暖化が進んでいるとしか思えない。「パリ協定」からの離脱宣言をトランプ大統領がしているが、独善のツケは全て人の上にもたらされる。異常気象が怖い。

○福島の南会津のひめさゆりの群生地を散策した。山深いところで緑また緑と豊かな緑を満喫した一日でもあった。温暖化など無いという学者が、この景色を見て言われるのであれば大間違いである。北九州の福岡、大分の山里も緑豊かなところと容易に想像される。異常気象という人災に景色が一変されている。改めて、自然に対する畏敬の念を抱く思いである。自然からの報復は怖い。

○黒豆、小豆の播種など、車事故から大きく狂ってしまった。気力が削がれることの大きさを痛感している。“塞翁が馬”と云うが、何があるかわからない。最近、体力・気力がある内にと意識することが多くなった。行動には気力の充実である。気力アップのためにも断捨離をしたいと思っている。何度かトライして3日坊主にしてきたが真面目に取り組みたいと思う。種まき、植込みが好きな私の悲しい性(さが)の克服が問題である。



<ひめさゆりの里・高清水自然公園
>群生地を散策。25日撮影

○トマト、ナスの管理と収穫。たわわに実を付けた隠元、終盤に入ったブルーベリーの収穫をしたい。繁茂力に負けない除草も頑張りたいと思っている。先行して蒔いた金時、小豆、黒豆は、先週の雨で良好に発芽している(写真右)。酷暑の中で蒔いた黒豆、小豆の発芽が心配である。定植した落花生はもっと心配である。恵の雨を期待している。



<金時の発芽>黒豆、小豆も 25 日撮影

【楽農】ブルーベリーの収穫！

<畑 A> ; 金時、小豆、黒豆の播種、ブルーベリーの収穫
草払い機で除草。

<ハウス> ; トマト、キュウリの管理、

<畑 B> ; トラクター耕起、草払い機で除草。

黒豆、小豆(赤、黒、白)の播種。

落花生(オオマサリ)の定植。



<ブルーベリー>9日撮影

【楽市】イベント交流・直売など

○イベントなど ; 吟士権大会(11日)山野草の会で高清水自然公園へ(25日)共生つばさの会(6日)川柳の会(6日)に参加など。

○その他 ; ・ブルーベリーの少量出荷。



<隠元>9日撮影

【つぶやき=Tweet】るキャッチコピーに興味を持った！

○“昨夜の都議会議員選挙ちょっとほっとしました。”“都民がマトモな判断に賛意と安堵。茨城も笠間もマトモであって欲しいですね。”“でも油断すべからず！これで流れが変わっていくかは予断を許しません。”こんなメールのやり取りをしていた。このハゲー発言の豊田議員、失言続き稲田防衛大臣。付度が進行している、大事なところでは記憶にありません。良心が痛まないのか？と思うのであるが、政治家や役人は厚顔無恥でなければやれないのかも知れない？小池知事、都民ファーストの会が安倍政権への鉄槌の受け皿になっただけなのと思う。黒いものは黒と言って欲しい。社会のリーダーには、厚顔無恥と付度の世界とは無縁であって欲しい。風見鶏も多いので潮目を見て生き方を変える人も多いかもしれない。風見鶏でもよい。少しでもよい風が吹いて欲しいものである。反戦平和の道は閉ざして欲しくない。だが、メールにある通り予断は許さないのである。政治家や役人から第二第三の前川喜平の出現を期待したいのだが、。



<吟士権大会>元気な高齢者が。11日撮影

○最近購入した本が2冊ある。PRするキャッチコピーに興味を持ったからであらう

ある。あと文庫本で手軽で安価であったからでもある。1冊は、“閉じていく帝国と逆説の21世紀経済”水野和夫著・集英社新書である。“資本主義の終焉によって、世界経済の「常識」が逆転した。、、、とあった。資本主義の終焉の文言に興味を持った。社会主義の終焉などとはソ連邦の崩壊を機にいろいろ言われていたが、冷戦構造の終焉とともに一般的には社会主義に資本主義が勝ったと理解されているようだが、資本主義の終焉の文言は聞くことはなかった。最近、茨城で、ベトナムとの農業協力での話題が多いが社会主義国のベトナムは資本主義国の覇者アメリカに勝った国である。フランスの経済学者のトマ・ピケティの”富の格差「21世紀の資本」がベストセラーになっていると聞くが、今年1月に来日し東大で講演し大盛況であったと云う。「21世紀の資本」に続くのが水野和夫の”閉じていく帝国と逆説の21世紀経済(780円)“と思えて読みたくなった。

○ベトナムと言えば、NHKの朝ドラの「ひよこ」でビートルズの初来日で武道館公演の時のことをやっていたが、安田財閥の直系のオノ・ヨーコはジョン・レノンと結婚し、2人はニューヨークでベトナム反戦・平和の活動をしていた。ジョン・レノンはそのため銃弾に倒れた。日本でもベ平連を中心にしたベトナム反戦の市民運動が盛り上がっていた。



<盆栽展>近くの部落で、
萩が気に。6月10日撮影

○2冊目は“1時間の読書を持って癒えない悩みはない”18世紀フランスの哲学者モンテスキューの言葉を借りて自著の「絶望に効くブックカフェ」を河合香織が紹介していた。悩みの多い世の中にあり、大きな悩みを抱えているわけではないが、多くの悩み中にあり、関心を惹く文言だった。長くなるが以下を引用にする。“どうしてもないほどの苦悩に苛まれた時には、この言葉を思い出して本を開いた。死の恐怖におびえた時も、死にたくなかった時も、孤独に震える夜も、恋に破れた時も、何もかもが嫌になった時も、いつも本を手にとってきた。すると、今直面している悲しみや絶望は、実は数千年前から脈々と受け継がれてきた、ありふれたものであったことに気づくのだ。もうここにはいない古い時代の人たちと苦悩の列の中でつながっていることで、ひとりの悩みではないことに安堵した。”モンテスキューはこう言ったとあった。○また、“傷だらけになって掴む幸せ”のタイトルの中で、五体不満足の乙武洋匡の不倫騒動のことが書かれていた。五体不満足の彼がとタイトルから内容を想像してみてください。内容を書くのが嫌われるので省略する。「ホワイトハンズ」非営利組織の存在も初めて知った。多くの著書が引用介されている。悩みが解消されそうな内容満載?である。

【後記】暑い、大汗を、そしてビールを。
笠間に。kogure農場にお越し下さい。

【特に編集せずランダムな構成にします】

発行者；kogure農場・小暮虎雄
住所；笠間市本戸4201-10
携帯電話；090-9333-4135
メール；torao-k@nifty.com
HP；<http://ayaharu.my.coocan.jp>